

Members

東京合唱協会

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
指揮者 家田厚志・遠藤浩史
コンサートマスター 内藤 裕史
インスペクター 鈴木 光子
マネージャー 田村 真壽美

●——ソプラノ

今村由美子
ト部 博子
栗田真希子
菅 まろ美
鈴木由美子
只野裕美子
芳賀 恵
松田 昌恵
山本ア子
百合道子

●——アルト

石田 幸子
稲葉 洋子
江副 淳子
釘本 涼子
鈴木 光子
只野 真紀子
田村 真壽美
林 里花
平井 淳子
古市 尚子

●——テノール

有 銘 哲也
池 本 和 憲
小屋敷 真
内 藤 裕 史
平 田 孝 二
松 永 国 和
渡 辺 直 人
●——ピアノ(チェンバロ)
清 水 良 枝
松 村 結 子

●——バス

荒 木 誠
石 井 敏 郎
植 田 真 史
熊 谷 隆 彦
笹 倉 直 也
星 野 淳
松 井 康 司
箕 輪 健

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
コンサートマスター 池田 めぐみ
インスペクター 金岡 秀典
ライブラリアン 上村 雅英
マネージャー 上原 久幸

●——Violini

池田 めぐみ
上原 まさみ
大津 千代子
小澤 薫
海和 伸子
工藤 由紀子
鈴岡 淳子
高階 久美子
中村 朱見
蜷川 いづみ
服部 扶蘭乃
春山 笙子
廣島 美香
深澤 聡子
古市 久留美
宮林 陽子
山川 奈緒子

●——Viole

桜井 多美子
地挽 そのみ
続橋 直子
広瀬 雅子
松田 美奈子

●——Violoncelli

斉藤 章一
大島 純
仙石 由紀子
田中 光子
榎野 慎也
矢野 晶子

●——Contrabassi

菅野 明彦
金岡 秀典

●——Flauti

鈴木 陽子
須永 秀樹
井ノ上 洋
内山 豊美

●——Oboi

森 明子
井上 恵子

●——Clarineti

黒尾 文恵
西尾 郁子

●——Fagotti

藤田 旬
斎藤 美和子

●——Corni

岡村 陽

●——Trombe

上村 雅英
小川 正毅
松浦 光男

●——Tromboni

在原 豊
平林 徹
前原 尚規

●——Percussioni

白濱 俊宏
山下 秀樹
深川 考
藤城 佳之
石沢 学
横田 大司

予定●東京ニューシティ管弦楽団定期演奏会 1994年3月22日(火) 東京文化会館
●東京合唱協会・東京ニューシティ管弦楽団 定期演奏会 1994年9月4日(日) 北とぴあ

東京合唱協会

第10回 定期演奏会

東京ニューシティ管弦楽団

第2回 定期演奏会



ハイドン

Haydn: Oratorium "Die Jahreszeiten"

オラトリオ

四季

1993年9月1日(水) 午後7時開演 北とぴあさくらホール

主催: 東京ニューシティ管弦楽団 / 東京合唱協会

後援: 財団法人北区文化振興財団

協賛: ソプラ ロシア芸術振興協会・八重洲ターミナルホテル

曲目解説

オラトリオ「四季」は、ハイドンの代表作とも言える、オラトリオ「天地創造」の大成功の3年後、1801年に初演されました。

台本は英国の詩人タムスンの牧歌的な連詩「四季」(The Seasons)にもとづいて、ヴァン・スヴィーテン男爵がオラトリオにふさわしい若干のアレンジを加えながら独訳したものです。

その名のしめすとおり、全体は春夏秋冬の四部に分かれ、それぞれの四季における田園の牧歌的な情景がうたわれています。春ならば微風とともに近づく憧れ、雨露の恵みを求める農民の素朴な祈り、夏の夜明け、日の出、嵐、一日の営みを終えて家路にいとぐ夕暮、秋の収穫の歓び、勤労の讃美、鹿狩り、冬ならば深くたちこめた霧、炉辺の集い——、とこのようにきわめて世俗的な現世的な題材が中心になって扱われ、あのオラトリオにふさわしい宗教的な内容をもった「天地創造」(旧約聖書の最初の部分を音楽にしたオラトリオ)とはだいぶ趣きを異にしています。登場人物も小作人の親爺シモン、その娘ハンネ、娘の恋人である若い農夫ルーカスといった工合で、はなはだ宗教音楽らしくなく、それどころか耳をすませると、若い恋人同志の愛の囁きがきこえてくるし、豊作のぶどう酒に酔った農夫たちが、笛や太鼓にあわせてうたうだみ声まではいってこようという始末です。冬ともなれば村人たちはいろりをかこんで、これまたあいのないばか話をやってゲラゲラ笑っています。

こうしたことから、初演当時すでに「『天地創造』では天使がうたったが、『四季』では百姓がうたう。」などと皮肉って、オラトリオの威厳にかけて非難する人々も少なくありませんでした。

たしかに、この曲がオラトリオとして一風変わった内容をもっているのは事実ですが、しかしこのような日常的な内容のなかにあふれた農民の素朴な宗教的感情は疑がうべくもありません。言うなれば、ミサ曲や「天地創造」等のように、直接的な宗教作品でなく、モーツァルトの「魔笛」における全人類の同胞愛、さらにそこに色濃く宗教性を加味した、ベートーベンの「第九交響曲」等の部類の芸術性に属するとも言えましょう。「魔笛」といえば、「四季」の中には「魔笛」の中の色々な場面を彷彿させる音楽の扱いが随所に見られます。モーツァルトは先輩ハイドンから、多くを学びましたが、モーツァルトの死後は、逆にハイドンが弟子の作品から多くを学んだということは良く知られています。この作品はそれを裏づける良い例とも言えましょう。ともあれ、世人の敬愛を身に受け、心の屈托もとかれた70歳にもなんなんとする老ハイドンが、創造と信仰の歓びに燃えつつ書き上げたその音楽は、異常なほど若々しい独創性にあふれ、音楽史上誇るべき最上の宗教音楽作品の1つとして、「天地創造」とともにその名を高くしているのも当然というべきでしょう。

今にちでは「四季」を演奏する場合、コーラスとは別にソリストを外部から迎えることが多いようですが、東京合唱協会は、日頃、コーラスだけでなく、ソロ活動を行っているメンバーが多く、本日は、メンバーが特別なソリスト扱いではなく、コーラスを歌いながらソロを務める古典的なスタイルで演奏いたします。

なお、本日の演奏は、全曲が長大なため、ソロ曲の一部を割愛しております。

Profile



東京合唱協会

1984年4月、常任指揮者に内藤彰を擁し、結成された。オペラや色々なコンサートでソロ活動をしている声楽家を中心にして組織され、これまでに定期演奏会、各地での特別演奏会、ファミリーコンサート、オペレッタ公演、テレビ出演等の他、音楽鑑賞教室、NHK学校放送、教育用レコードの録音等、オーソドックスな合唱から、華やかなオペラ・ミュージカルまでこなせる迫力あるプロ合唱団として、親しまれてきた。特に定期演奏会の模様は「音楽の友」でも大きく取り上げられ、NHK-FMやTBS「百万人の音楽」からは特集番組として放送され、話題を呼んだ。ステージも年間100回を越え、東京合唱協会により初演された曲も数十曲を数える。

東京ニューシティ管弦樂團

1987年音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲、バレエ・オペラの伴奏、音楽鑑賞教室、レコーディング等幅広く活躍。

20数回にわたるユニバーサルバレエ団の日本公演や、世界のオペラ界で活躍しているレナータ・スコット、アルフレード・クラウス、カーティア・リッチャレリ等との共演では、聴衆や評論家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、心からの謝辞と絶賛の言葉を贈られた。また'91年2月の韓国ソウルにおけるオペラ・バレエ等の公演でも高い評価を得た。

メンバー個人個人の實力はもちろん、それぞれの暖かい人間性も共演の指揮者、リストから大変高く評価されている。



内藤 彰 | 指揮

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小沢征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。

国内での活動の他、ベオグラードフィル、新体制で話題のモスクワ響等を指揮し、今後のヨーロッパでの活躍も注目されている。日本指揮者協会幹事。

春 ● *Der Frühling*

EINLEITUNG UND REZITATIV

〈SIMON……Bar., LUKAS……Ten., HANNE……Sop.〉

Seht, wie der strenge Winter flieht!
Zum fernen Pole zieht er hin.

LANDVOLK〈CHOR〉

Komm, holder Lenz,
Des Himmels Gabe, komm!

REZITATIV〈SIMON〉

Vom widder strahlet jetzt
Die helle Sonn' auf uns herab.

ARIE〈SIMON〉

Schon eilet froh der Ackersmann
Zur Arbeit auf das Feld;

REZITATIV〈LUKAS〉

Der Landmann hat sein Werk vollbracht
Und weder Müh' noch Fleiss gespart

TERZETT UND CHOR

Sei nun gnädig, milder Himmel!
Öffne dich und träufe Segen
Über unser Land herab!

REZITATIV〈HANNE〉

Erhört ist unser Flehn;
Der laue West erwärmt und füllt
Die Luft mit feuchten Dünsten an.

FREUDENLIED

Oh, wie lieblich
Ist der Anblick
Der Gefilde jetzt!

CHOR MIT SOLI

Ewiger, mächtiger, gütiger Gott!
Von deinem Segensmahle
Hast du gelabet uns.

●序奏とレツィタティーフ

〈シモン……バリトン、ルーカス……テナー、ハンネ……ソプラノ〉

見よ、きびしい冬も、
遠いかなたへと去ってゆく!

●田園の人々〈合唱〉

来い、のどかな春よ、
天の恵みの春よ、来い!

●レツィタティーフ〈シモン〉

天の雄羊座から、いま
輝かしい太陽が地上の私らを照らす。

●アリア〈シモン〉

農夫はいま、喜びいさんで
畑へ仕事に出かけてゆく。

●レツィタティーフ〈ルーカス〉

農夫はいま、骨おしみせず、
勤勉に働いて、その仕事を終えた。

●三重唱と合唱

慈悲ぶかい天よ、恵みをあたえてください!
胸をひらいて、私たちの土地のうえに、
祝福をあたえてください!

●レツィタティーフ〈ハンネ〉

私たちの願いは聴きとどけられました。
西風は温かくなごみ、
空気はもやのしめりけに満ちています。

●喜びの歌〈三重唱と若者たちの合唱〉

おお、いまや、
なんとすばらしい、
広野の景色でしょう!

●独唱つき合唱

永遠にして、全能の、恵みぶかい神よ!
あなたの恵みのうたげによって、
あなたは私たちにかてをあたえてくださいました。



夏 ● *Der Sommer*

EINLEITUNG ●序奏

TERZETT UND CHOR

Sie steigt herauf, die Sonne, sie steigt.
Sie naht, sie kommt.
Sie strahlt, sie scheint.

●三重唱と合唱

太陽が昇る。
太陽は昇り、近づき、そしてやってくる。
太陽は、きらめき、輝いている!

REZITATIV〈SIMON・LUKAS・HANNE〉 ●レツィタティーフ〈シモン・ルーカス・ハンネ〉

O seht! Es steigt in der schwülen Luft
Am hohen Saume des Gebirgs
Von Dampf und Dunst ein fahler Nebel auf.

おお、見よ! むし暑い空気のなかに、
もやにつつまれた高い山の頂きに、
灰色の霧が立ちのぼっている。

CHOR

Ach, das Ungewitter naht!
Hilf uns, Himmel!

●合唱

ああ、嵐が近づいた!
天よ、私たちをお助けください!

TERZETT UND CHOR

Die düstren Wolken trennen sich,
Gestillet der Stürme Wut.

●三重唱と合唱

黒い雲は切れ、
怖しい雷は静まった。

休憩



ナレーター
伊左次 美江



HANNE〈春・夏〉
松田 昌恵



LUKAS〈春・夏〉
松永 国和



SIMON〈春・夏〉
星野 淳

秋 ● *Der Herbst*

EINLEITUNG UND REZITATIV <HANNE>

Was durch seine Blüte
Der Lenz zuerst versprach,
Was durch seine Wärme
Der Somemr reifen hiess,
Zeigt der Herbst in Fülle
Dem frohen Landmann jetzt.
.....

REZITATIV <LUKAS・SIMON>

Den reichen Vorrat führt er nun
Auf hochbeladnen Wagen ein.
.....

TERZETT UND CHOR

So lohnet die Natur den Fleiss,
Ihn ruft, ihn lacht sie an;
.....

REZITATIV <LUKAS>

Hier treibt ein dichter Kreis
Die Hasen aus dem Lager auf.
.....

CHOR

Hört das laute Getön,
Das dort im Walde klinget!
.....

REZITATIV <HANNE・LUKAS・SIMON>

Am Rebenstocke blinket jetzt
Die helle Traub' in vollem Saft
.....

CHOR

Juhe! Juhe! Der Wein ist da.
Die Tonnen sind gefüllt.
.....

●序奏とレツィタティーフ <ハンネ>

はじめ, 春が
花を咲かせて約束し,
夏が, 暑さで
実りを命じたものを,
いま, 秋が, 喜びいさむ農夫に,
豊かに示しています。
.....

●レツィタティーフ <ルーカス・シモン>

農夫はいま, 車にうず高く積みあげられた,
豊かな貯えを運びいれる。
.....

●三重唱と合唱

こんなに自然は, 勤労に報いてくれた。
自然は, 勤労をもとめ, ほほえみかけ,
.....

●レツィタティーフ <ルーカス>

ここで, 野うさぎをねぐらから,
目のつんだわなに駆り立てる。
.....

●村人と狩人たちの合唱

聞け, この大きなざわめきを,
あの森のなかにとどろきわたっている!
.....

●レツィタティーフ <ハンネ・ルーカス・シモン>

ぶどうの樹には, いま,
美しいぶどうの房がみずみずしく輝いて,
.....

●酒宴の合唱

ばんざい, ぶどう酒だ,
樽はいっぱいだ。
.....



冬 ● *Der Winter*

EINLEITUNG ●序奏

REZITATIV <SIMON・HANNE>

Nun senket sich das blasse Jahr,
Und fallen Dünste kalt herab.
.....

KAVATINE <HANNE>

Licht und Leben sind geschwächt;
Wärm' und Freude sind verschwunden.
.....

LIED MIT CHOR <HANNE>

Knurre, schnurre, knurre!
Schnurre, Rädchen, schnurre!
.....

REZITATIV <LUKAS>

Abgesponnen ist der Flachs;
Nun steh'n die Räder still.
.....

LIED MIT CHOR <HANNE>

Ein Mädchen, das auf Ehre hielt,
Liebt einst ein Edelmann;
.....

TERZETT UND DOPPEL CHOR

Dann bicht der grosse Morgen an!
Der Allmacht zweites Wort erweckt
Zu neuem Dasein uns,
Von Pein und Tod auf immer frei.
.....

●レツィタティーフ <シモン・ハンネ>

いま, 色あせた年が沈み,
冷い霧がおりる。
.....

●カバティーネ <ハンネ>

光と命は衰え,
暖かさと喜びもしぼんでしまいました。
.....

●合唱つきりート <ハンネ>

ぐるぐるまわれ
まわれ糸車!
.....

●レツィタティーフ <ルーカス>

亜麻布を紡ぎおわって,
糸車も, いまは止まった。
.....

●合唱つきりート <ハンネ>

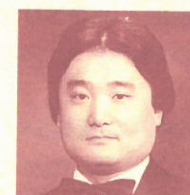
あるとき, 名誉を重んずる娘が,
ひとりの貴族に恋されました。
.....

●三重唱と二重合唱

それから, 大いなる朝がやってきた。
全能なるおかたの二番目の言葉が,
苦痛と死とから, 永久に開放して,
新しい生活を私たちに呼びさましてくださった。
.....



HANNE <秋・冬>
百合 道子



LUKAS <秋・冬>
内藤 裕史



SIMON <秋・冬>
松井 康司